

第一期中期目標期間における業務実績評価にかかる 論点整理表 (案)

資料7

評価の視点	中間総括 (H21~H24) ※H26.1月報告	番号	関連する中期目標・中期計画	関連する中期計画の実施状況		期間評価にかかる評価委員コメント
				中期計画の実施状況 (H21~H26)	達成年度	
第1 教育に関する項目						
<p>中間総括における項目< >ごと「評価の視点」として分類する。</p> <p>① 質の高い看護職者の育成 <</p>	<p>●看護専門職者と総合的看護実践能力を育成するための新カリキュラムを作成し、平成24年4月より運用を開始した。また、新カリキュラムの有効性についても、継続的に点検・検証を実施している。 <21101関連></p> <p>●授業改革のための組織的取組として、FD活動を総合的・多面的に推進し、教育の質を向上させる取組を展開している。「学生による授業評価」に加えて、全国に先駆けて実施している「教員相互による授業評価」などの授業点検評価により、授業形態、学習指導法等を改善し、質の高い看護職者の育成に貢献している。 <21102、21305、21306関連></p> <p>●平成23年度に「認定看護師教育課程『感染管理』」を開設し、また、成人看護学領域の専門看護師コース開設に向けて取り組むなど、総合的能力を有する看護専門職者を育成している。 <21108関連></p>	21101	<p><幅広い教養と豊かな人間性の育成></p> <p>すべての人に対する思いやりと人間愛を育むため、人間性を培う教養・基礎教育と看護の専門性を培う専門支持及び専門教育を充実させることにより、高い倫理観を基盤とした幅広い教養と豊かな人間性を育成する。</p>	幅広い教養と豊かな人間性の育成のため、カリキュラム内容の点検・評価を毎年度実施した。また、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、平成24年度から新カリキュラムの運用を開始し、それに合わせて看護専門職としてのアイデンティティの醸成をねらいとしたキャリアデザインや大学教育を学ぶ上で基礎的な能力の育成として日本語トレーニングを開講した。	21	<p>【重点的な取組及び特筆すべき取組】</p> <p>【遅れている取組】</p> <p>【その他の意見】</p>
		21102	<p><看護専門職者としての基礎的な能力の育成></p> <p>自律的・創造的に看護を実践するため、主体的に学習する姿勢、課題発見や問題解決の能力、コミュニケーション能力を含めた理解力、思考力、表現力等の育成を図る。</p>	「教員相互による授業評価」及び「学生による授業評価」を参考に授業内容の改善に努めた。また平成24年度から新カリキュラムとして「日本語トレーニング」「キャリアデザイン」を開講し、看護者専門職者としての基礎的な能力の育成につなげることができた。	21	
		21108	<p><総合的調整能力を有する看護専門職者の育成></p> <p>多様化・複雑化・高度化する看護ニーズに的確に応えていくため、看護の実践現場における総合的な調整能力を有する看護専門職者を育成する。</p>	看護の専門職者を育成するため、県内のニーズ調査を踏まえ、平成23年度から認定看護師教育課程『感染管理』を開講し、3年間で90名の修了生を送り出した。	23	
		21305	<p><FD活動の組織的推進></p> <p>教材や学習指導方法等に関する研究を推進し、教育の質を向上させるため、組織的な取組みを進める。</p>	「研究・教育コロキウム」を継続的に開催し、各教員が取り組んでいる研究や教育に関連するテーマで発表・意見交換がなされた。また、FD研修会における議論や各種アンケートから見出された教育改善に関わる意見については、教授会において教職員に報告し、教育改善への取り組みに活用するよう求めた。	21	
		21306	<p><教員相互の授業評価の実施></p> <p>授業を担当する教員は教員間での授業評価を受け、授業形態、学習指導法等のさらなる改善を図る。</p>	「教員相互による授業評価」を継続的に実施し、評価者、被評価者両者による評価会議を実施するとともに、「学生による授業評価」を行い評価結果を各教員が授業内容にフィードバックして改善を図った。	21	

※ ↓同じ要領で②以降を、中間総括(評価の視点)ごとに作成する。